

2.これまでの調査について

陸生昆虫類	
平成 15・16 年度 現地調査計画	目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

平成 13 年度に行なった調査は、湛水予定区域及びその周辺 500m を目安とした範囲内を対象としており、湛水予定区域周辺における陸生昆虫類の把握を主な目的として実施しました。

このため、平成 15・16 年度の調査では、これまで把握されていない湛水予定区域外における陸生昆虫類の生息状況を明らかにすることを目的としています。

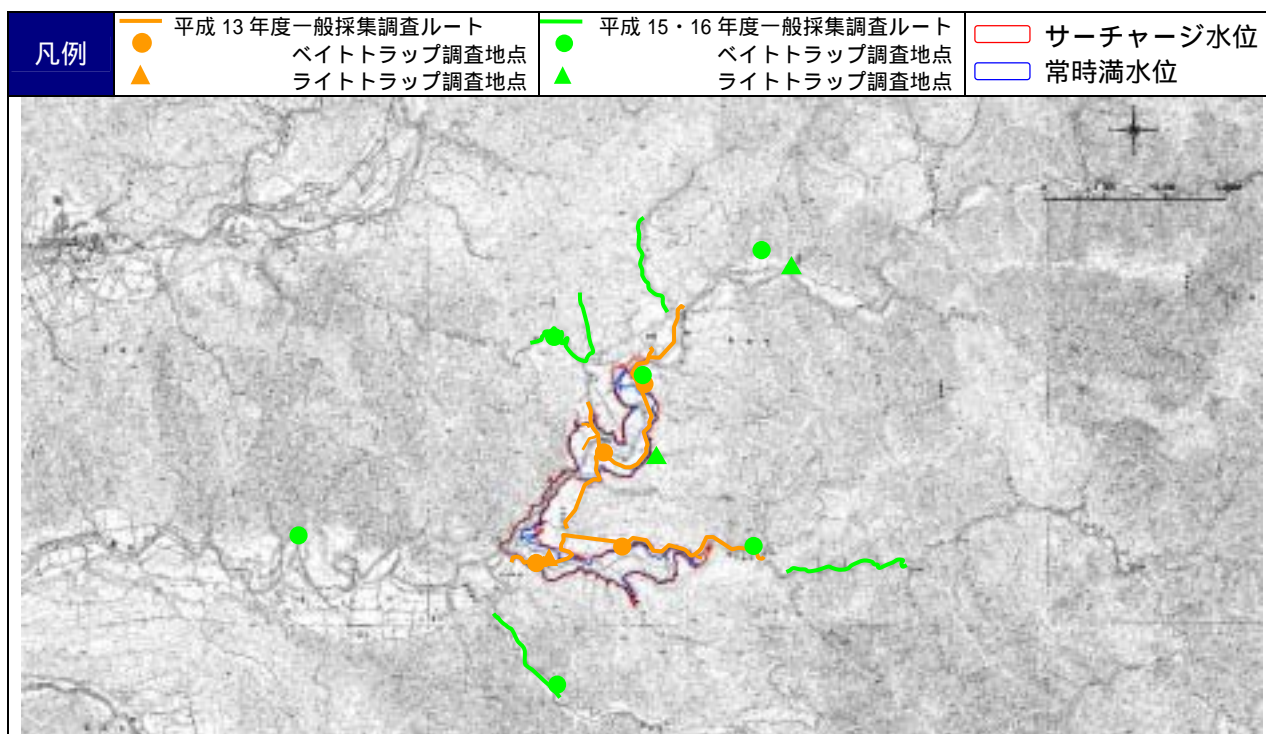
調査の項目・方法

調査項目	調査方法
ヒメギフチョウ調査	現地踏査によって食草(オクエゾサイシン)及び産卵状況、目視による成虫等の確認を行う。
一般採集	見つけ取り : 捕虫網を用いて目視で観察された昆虫を採集する。 スウィーピング : 捕虫網を用いてすくい取りを行って昆虫を採集する。主に草原で用いる。 ピーティング : 樹木の枝等をたたき、落下する昆虫を採集する。主に林縁で用いる。
ベイトトラップ	糖蜜等により誘引された昆虫を採集する。1 地点あたり 25 個のプラスチック製コップを用いる。
ライトトラップ	光により誘引される昆虫を採集する。光源には 20W の蛍光灯とブラックライトを用いる。

調査日程・実施状況

調査項目	調査時期	実施状況
ヒメギフチョウ調査	平成 15 年 5 月 6~8 日、12 日	平成 15 年度調査は終了。
一般採集、ベイトトラップ、ライトトラップ	平成 15 年 7 月 7~10 日、7 月 28~31 日、8 月	は調査終了。 は台風 10 号の影響により中止。
過去の調査	平成 13 年 6 月、7 月、8 月	平成 15 年度調査と同じく、一般採集・ベイトトラップ・ライトトラップを実施した。

調査対象範囲



過年度及び平成 15 年度調査結果 確認種・重要種

H13 年度調査、H15 年度調査 確認種

平成 13 年度調査では、13 目 178 科 1,074 種の陸生昆虫類が確認されました。

また、今年度調査結果のうち、現在同定作業中の一部を除き、13 目 163 科 864 種が確認されました。

着目すべき陸生昆虫類 (H13 年度調査)

科名	種名	環境庁 RL	北海道 RDB	確認個体数
トンボ	ヒメリスアカネ		希少種	1
オサムシ	ヒダカマルクビゴミムシ		希少種	1
ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	準絶滅危惧	希少種	1
ミズスマシ	ミズスマシ		希少種	3
カミキリムシ	ケマダラカミキリ	準絶滅危惧	留意種	1
ヒゲナガゾウムシ	シロヒゲナガゾウムシ		希少種	1
クサアブ	ネグロクサアブ	情報不足		1
ハナアブ	ジョウザンナガハナアブ		希少種	1
セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	準絶滅危惧	留意種	3
計 9 科 9 種				

着目すべき陸生昆虫類 (H15 年度調査)

科名	種名	環境庁 RL	北海道 RDB	確認個体数
アオイトトンボ	オオアオイトトンボ		希少種	1
オサムシ	セスジカタキバゴミムシ		希少種	1
カミキリムシ	ケマダラカミキリ	準絶滅危惧種	留意種	4
イエバエ	キバネクロバエ		希少種	1
クロバエ	エゾクロバエ		希少種	1
ニクバエ	シロガネニクバエ		希少種	1
	エダガタニクバエ		希少種	1
計 6 科 7 種				

平成 15 年度調査結果については、同定作業中の一部を除く。

特記事項

これまで確認された着目すべき陸生昆虫類の内、ヒダカマルクビゴミムシ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、シロヒゲナガゾウムシが湛水予定区域内で確認されました。

ライトトラップで確認されたシロヒゲナガゾウムシは、全国的に分布が見られ、主に人里から森林を生息の場とする種です。

ヒダカマルクビゴミムシは北海道特産種で、一般的には河川沿いなどに生息しています。宿主別川の河川敷で確認されました。

ゲンゴロウ、ミズスマシは全国的に分布して、水田などによく見られる種ですが、近年、生息数の減少が懸念されている種です。過年度調査では、額平川沿いの湿地・ワンドで確認されました。

そのほか、底生動物調査では、ムカシトンボの幼虫が確認されています。

なお、過年度と今年度での着目すべき種の相違については、調査地点の環境の相違に大きく左右されますが、陸生昆虫類の現地調査で採集される種は千数百種にも及び、1つの種につき確認が1個体というケースも珍しく無いことと考えられます。

2.これまでの調査について

底生動物	
平成 15・16 年度 現地調査計画	目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

平取ダム周辺での底生動物については、平成 13 年度に額平川、宿主別川、パンケペッカシロ川及びパンケイワナイ川の各河川で湛水予定区域周辺を対象として調査を実施しました。

そこで、平成 15・16 年度調査では、主に湛水予定区域外の額平川流域における底生動物生息状況を明らかにするために行います。

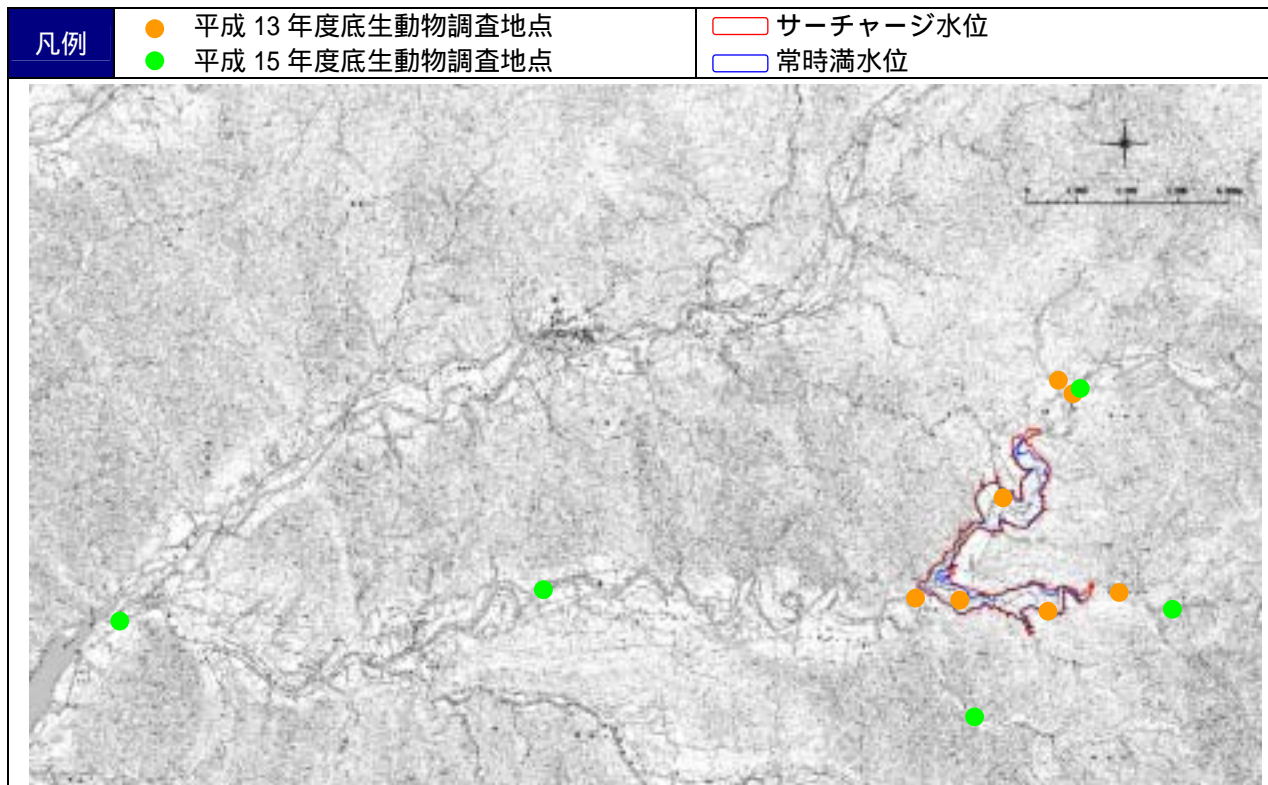
調査の項目・方法

調査項目	調査方法
定性採集 定量採集	<ul style="list-style-type: none"> ・定性：口径 30cm 程度の柄付きたも網を用いて、淵や水生植物周辺に生息する底生動物を採集する。 ・定量：採集地点の代表的早瀬において 25cm×25cm コドラート付きサーバーネットを用いて 8 回の底生動物採集を行う。 ・このほか、調査地の環境概況として、河川形態、河床材料、瀬淵の有無、水深、周辺植生、その他の特徴的なことを記録する。

調査日程・実施状況

調査時期	調査日程	実施状況
定性採集、定量採集	平成 15 年 7 月 28 日～29 日 平成 15 年 9 月 21 日～22 日 平成 16 年 5 月下旬～6 月上旬	平成 15 年度調査は終了。
過去の調査	平成 13 年 6 月 20 日～22 日 平成 13 年 9 月 30 日～10 月 2 日	定量採集・定性採集を 7 地点で実施。

調査対象範囲



過年度及び平成 15 年度調査結果 確認種・重要種

H13 年度、H15 年度調査 確認種

平成 13 年度調査では 10 目 46 科 83 種が、平成 15 年度調査では、11 目 41 科 81 種がそれぞれ確認されました。

確認個体数については、平成 13 年度夏の結果ではダム予定地周辺の地点でハエ目の割合が高く、平成 15 年度でも沙流川合流部以外の地点で、ハエ目の割合が高いという結果が得られました。

平成 15 年度の沙流川・額平川の合流部の地点は、カゲロウ目が最も高い割合で確認され、種ではヒメヒラタカゲロウが多く生息しているという結果が得られました。

特記事項

平成 13 年度ではムカシトンボの幼虫（北海道レッドデータブック：留意種）が 10 月にダム予定地の下流で確認され、また平成 15 年度では、モノアラガイ（環境庁レッドリスト：準絶滅危惧種）が 7 月にダム予定地の下流で、ムカシトンボの幼虫が宿主別川で確認されました。

2.これまでの調査について